

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792020018		
法人名	(株)あいの里		
事業所名	川俣町 かえでの森 (グループホーム)		
所在地	福島県伊達郡川俣町八反田3-2		
自己評価作成日	平成25年10月24日	評価結果市町村受理日	平成26年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年12月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

力を入れているところは、いつまでも地域の人と親戚、家族とつながりを持って安心して、グループホームで生活できることと、毎日が楽しく張り合いを持って、生き生きと過ごせる事。  
 アピールしたいところは、小学校の運動会には走ってお宝を頂いたり、盆踊りには浴衣を着て輪の中で踊ったり、パレードやロードレースには沿道に出て声援して、地域の住民となっているところや利用者様が役割を持って、できる事を継続してやっていること

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1 事業所は小規模多機能型居宅介護事業所を併設しており、2階がグループホームとなっている。行事や防災訓練等を合同で実施し、特に災害時には2階の利用者を優先的に避難誘導できるよう全職員が共通の認識で訓練の実践をしている。
- 2 利用者の各部屋の入り口には名前が書かれた防災頭巾が用意されており、夜間時等の避難には利用者に防災頭巾を必ずかぶってもらい、避難したことへの目印として役立てている。
- 3 事業所として資格取得への支援を行っているため、受験条件の整った職員から順次資格取得に挑んでいる。今年は職員の半数近くが受験予定であり、全職員が自己研鑽に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
#	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
#	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
#	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
#	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
#	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
#	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
#	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居場所が違って、なじみの関係を断ち切ることなく生活できることを意識して、職員で決めた。2年経っているので変更の意見も出たが、まだ理念として掲げることになっている	法人理念のほかに全職員で作成した事業所独自の理念があり、玄関等に掲示されている。全職員が全体会議等で理念を確認し、意識を共有して日々のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っている。寄付金の協力をしている 住所地の敬老会に参加できるように、婦人会などに話している 町内の行事には参加するようにしている	町内会に加入し、地域の季節ごとの祭礼や行事等に積極的に参加し交流している。ボランティア(日本舞踊・太鼓・大正琴等)を多く受入っており、小学校の授業の一環である高齢者とのふれあい体験学習では認知症の高齢者とかかわりを持つ機会を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が相談されることがあるので、その都度認知症の介護の仕方など話している。施設の見学を勧めて、生活の様子を見てもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ヒヤリ・ハットの対応の意見や、行事や行楽地の紹介を頂いたりして、出かけたりした	運営推進委員は行政職員はじめ各分野から選任され、定期的開催されている。委員からの意見は少なく事業所の状況報告のみの会議となっている。	各委員から事業所運営やサービスの向上についての意見や提言等が多く出されるような会議運営が望まれる。さらに議事録は会議内容が把握できるよう記録されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には役場から担当者へ出席していただいている、質問を受けたりして、取り組みを説明している	行政の担当者が運営推進会議に参加しており、利用者の状況等常に情報交換して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがある 職員は「身体拘束について」の研修に参加して、職員会議で伝達勉強会をしている 施錠はしていない、いつでも出入りできるようにしている	全職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。言葉による拘束等についても常に職員間で話し合いが行なわれている。玄関の施錠は夜間のみとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で、5月23日新聞報道の介護福祉士の虐待による死亡事故の検証をした。身近に起こりうることを意識し、改めて虐待・身体拘束について学んだ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あんしんサポートを利用していた方が入居するに当たって、後見人を付けるか検討する機会があったが、家族が管理することになった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書に添って説明し、疑問や不安がないか聞きながら、進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られたときは、生活状況の報告をしながら、意見や要望を聞いている。苦情は窓口や外部へ相談してもよいことを説明している	家族の面会が多く、家族が気軽に何でも話せるような雰囲気づくりを全職員が心がけて意見の把握をしている。また、利用者の状況報告等あらゆる機会を通して意向把握をしている。出された意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に代表または統括が出席している、その場で改善案や要望が出されるので、聞いている。購入できるものは購入している	月例の全体会議には法人代表等が参加しており、さらに個別面談を通して職員個々の目標や意見の把握に努めている。職員の意見等は運営に反映させる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間目標を提出して、評価している 管理者は勤務実績を報告している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2年経過したので、認知症実践者研修に参加して自分を振り返り今後の目標を持ってもらう機会になった 外部講習を呼び、介護福祉士受験対策の勉強会を開催し4名参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設見学交流会に参加して、見学に来てもらった グループホーム連絡協議会に参加し会議で意見交換したり、研修に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にはなじみの家具や食器を持参してもらい、安心できるようにしている 慣れるまでは、職員と一緒にいたて、お話を聞いたりしてなじみの関係作りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたり契約時から、不安や要望を聞いて、不安のないように説明している 家族には毎月お手紙を出して、生活の状況をお知らせしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体力維持が必要な方には、生活リハビリで、出来ることをやってもらうことから支援することを説明している。美容院に行く支援もしていることを説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴミ出しや買い物、メニュー書き、食器洗い、洗濯ものたたみなどできることを一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	美容院、受診、衣替えなど家族と一緒に出かけたり、やってもらっている 行事などにも参加して一緒に楽しんでいただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に戻ったときは、近所の人にあいさつしてくる。草刈をやってもらっている人もいる	利用者の友人や近所の方の訪問があり、これまでの関係が少しでも長く継続できるよう支援している。日常的に近隣の商店への買物の支援をしており、入居後の新しいなじみの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士が一緒に席になるよう考慮したり、配膳や洗濯物たたみなど利用者様同士で行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した方のところには、お見舞い行ったりしている。妻が利用していて夫の相談を受け、利用するようになった方が(小規模)2名いる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活状況を本人と家族から聞いたり、希望ややりたいことなどを聞いている、また普段から本人と会話して、本人の気持ちを聞き取りしている	担当者を中心に全職員が利用者との日々の生活の中で、利用者の「やりたいこと」「できること」等の意向把握に努め、「潜在能力」を日常生活に活かせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のことは、家族から聞いたり、事業所から情報頂いたりして把握するようにしている。センター方式のアセスメント用紙を活用し、聞き取りしたことを気付いたときに記入するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメント用紙を活用し、気付いたときに記入している。毎月の職員会議でカンファレンスをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の介護支援チェックシートに実施できたかチェックして、モニタリング時に活用している。本人や家族には意見を聞いている	利用者の現況把握に努め、利用者、家族の意向を確認して利用者の現状に即した介護計画を作成している。個別記録をもとに担当職員を中心にモニタリングを実施して定期的に介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合には随時話し合い介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援記録用紙に生活の様子を記録し、ケアプランの実施項目も記録している。職員会議で検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅に帰りたときは家族と一緒に帰ったり、温泉に宿泊してもらったり、外食したいときは、都合をつけて出かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署、消防団の指導協力で、年2回避難訓練をしている、避難訓練には近所の方の参加もある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からの医療機関を継続してもらっている受診に付いて行って、担当医に相談したり、お話を聞いている	かかりつけ医の受診を支援している。受診には家族対応を基本としているが、状況によっては職員の対応もある。受診後は家族と情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3日の勤務なので、経過の状態を報告したり、相談して、その都度意見をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときは職員が交代でお見舞いに行っている 家族や看護師から状況を聞いてきたり、病院からのカンファレンスには、同席させてもらうように話している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時の意向は聞いている 重度化に向けての指針があるので、その状況時は家族に説明する	事業所として「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成しており、重度化した場合には家族、医師、職員等で十分話し合い家族の意向に沿って柔軟に対応することになっている。現在重度化した利用者はいないが、終末期のケアにあたっては全職員が方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救急救命士の講習(3名)普通救急救命士の講習(12名)受講した。毎年消防署に協力いただいて講習会を開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している、そのうち年1回は夜間想定で実施している。消防署 消防団 近隣の方の参加協力がある	消防署立会いの総合防災訓練を年2回実施している。さらに毎月事業所独自の防災訓練(通報訓練・避難経路確認・誘導訓練・職員の伝達訓練・非常時召集訓練等)を実施している。非常用として食料品等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの研修に参加している、言葉使い等の講義もあり、全体会で報告勉強会をしている	全職員が利用者への声かけや言葉遣いに留意し、自尊心を損ねない対応をしている。プライバシー保護についての研修を通して、守秘義務や個人情報の保護等について徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうですか！」と声掛けし、自分で決めてもらうように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	メニュー作成時は食べたいもの聞いている 入浴はいつでも入れるようにしてある 買い物に行ったきは、選んでもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行ったり、季節の洋服や下着など一緒に買い物に行って選んでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	献立、買い物、調理を一緒に行っている、食事職員も同じテーブルで食べるようになっている 下膳、食器洗い、拭き方まで一緒にやっている	食材の購入は利用者が職員と一緒にっており、調理や片付けも職員とともに行っている。家族から野菜の差し入れ等も多く、季節感のある食事を提供をしている。献立は職員が利用者の希望を聞きながら作成しており、おかゆや刻み食にも対応している。行事食や外食の支援もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の生活記録用紙に食事量、水分量を記入し、把握するようになっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は職員が確認しているが、朝、昼は声掛けでやっていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツから紙パンツに変更し、定時にトイレ案内している、トイレの訴えも出るようになった 「排泄について」の研修に参加して、排泄パターンの把握をして、快適に過ごしてもらえる工夫をしている	利用者個々の排泄パターンを把握して、排泄の自立を目標に支援している。適切な誘導等により改善された利用者も多く、現在おむつの使用者は少数である。また、朝の一杯の水・青汁・乳酸菌等の摂取により便秘予防にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の把握をし、水分を摂ってもらったり、牛乳やヨーグルトを食べてもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるようにしてある、入浴を嫌がる人には、タイミングを見て入ってもらっている	利用者の希望により入浴可能な体制としている。入浴拒否者には時刻・話題や担当者を替え気分転換をはかりながら誘導している。ゆず湯・入浴剤なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間は決まっていない、ゆっくりテレビを観てから寝る人、おしゃべりしてから寝る人など午睡はソファーや居室でされる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも読めるように、ファイルにある。薬が変わったときなどは職員会議で報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日には社長が参加して、お祝いする役割はそれぞれあり、縫い物、メニュー書き、食器洗い、ゴミ出しと毎日やっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や外食などに時々出かけている 日常的には買い物に行っている バス旅行は計画したが実施できなかった	散歩や徒歩での買い物等は日常的に支援している。事業所として外出支援(花見・紅葉狩り・菊人形・つるし雛・バラ園・クマガイソウ見学等)を数多く計画し実践しており、季節の変化を楽しんでもらっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	孫が来たときにあげるといって手元に待っている方や、いつでもお金がないと落ち着かない方がいていつでも3千円ほど手持ちしてもらっている買い物したときは自分で支払いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を書いて出して居るが、家族から返事は来ていない 電話は耳が遠くて聞き取れないので、代理でやることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはエアコンがあり快適に過ごせるようにしている テレビ前にソファがあり、ゆっくりみることができる	共用空間は明るく広い。空調も適切に配慮されており、ソファ、畳、テーブルの3つのエリアがあり、利用者はそれぞれの場所で自由に過ごしている。壁には利用者が制作した季節感あふれる作品や事業所行事の写真が飾られており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが2ヶ所、和室とあり、自分で行きたいところにいける状態になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居時になじみのベットや食器や衣類等を持参いただいている。居室のそうじや片付けは自分でやるように勧めている ベランダがあり、洗濯物干しをしたり、外の様子を見たりしている	居室は換気扇・空調のみが設置されており、必要に応じてポータブルトイレが準備されている。利用者は使い慣れたベット・小箆箆・イス・テレビ等全て自由に持ち込み、それぞれが個性的な居室となっている。居室は清潔に保たれ、プライバシーも確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがついているので、居室ま手すりを伝って移動できる 洗面台で洗濯して、ベランダに干している 電気ポットがリビングにあり、自分でお茶を飲んでいる		